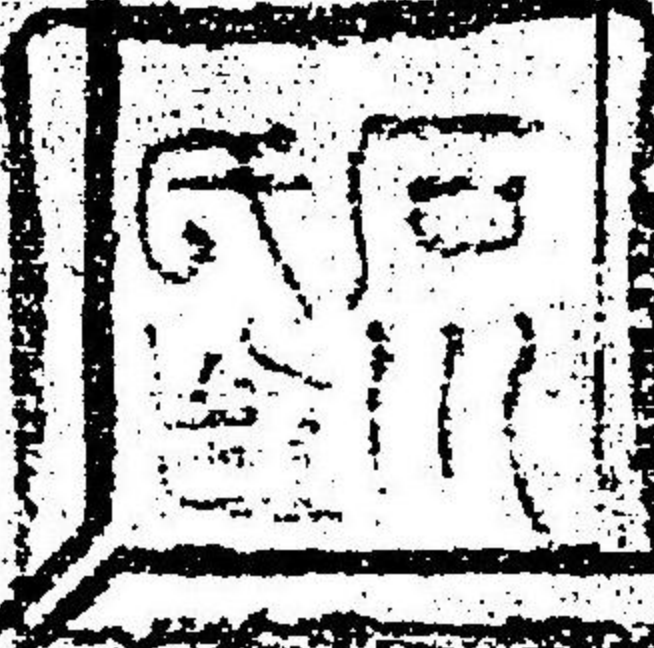


寧靜學人著

西洋



養愚堂梓



212748

叙

一昨年去夏の雨夜に徒然に此書の初

集と綴り不圖も看官の意小適ひ

賣方よりなれり書肆より二集の催促お

りつきは既に去年の仲夏に創稿し折

柄次第小羅いゝ貧乏閑暇ある某書

西洋

肆の催促くらりの多負債従責くらり
 又のねと巻首以書て夫ありよ東陸
 西陸くらりよ早くも師走の二日ら
 大晦日と飛成てぬら一月一日より
 筆くらり神も程もあく漸と脱稿てふの
 と息つららも果ぬ其由よ序文を如何

又催促長らく延きら出板あくらも
 無理とてくらりすれを書肆と俟せし伸
 急くらり拵あ言譯と云甫

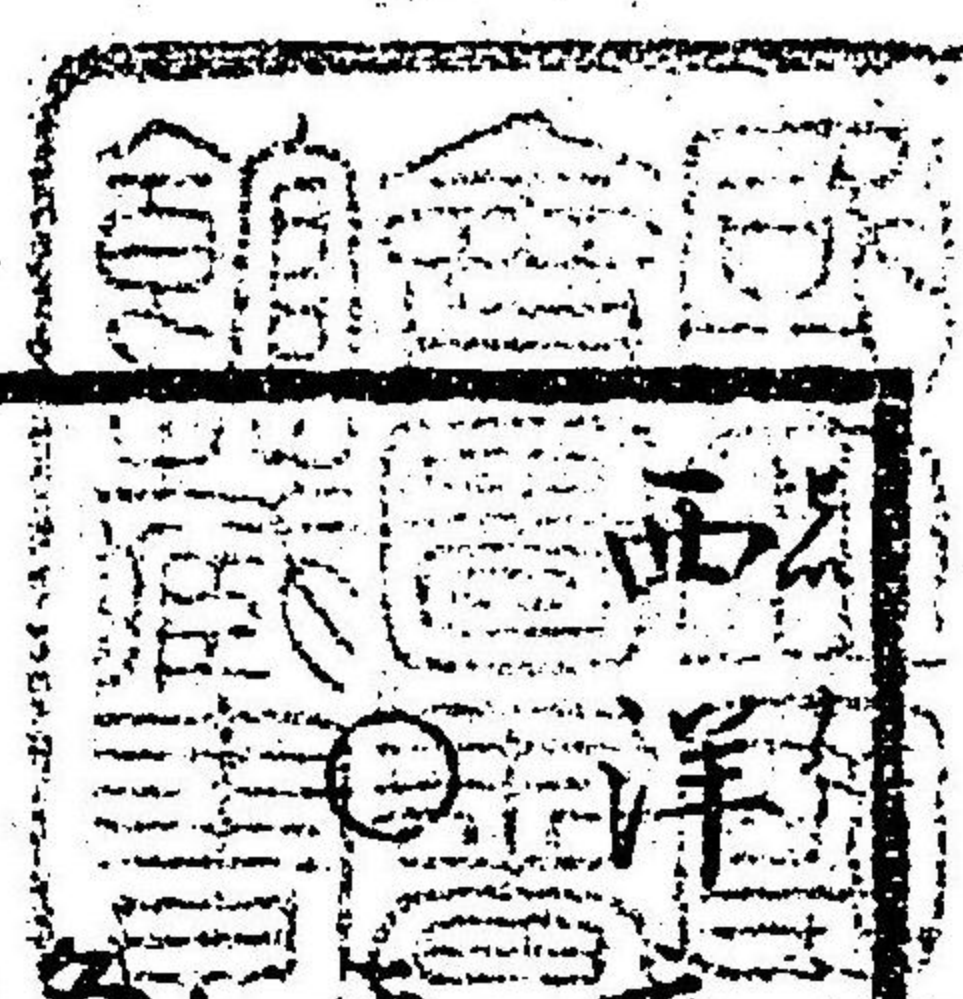
二五三三年一月七日

寧靜道人識



西洋書
 二集序
 二
 石川氏藏

謨說之肖像



○ 西洋夜話二集目錄
不立人西刺比路小迷以奇怪小
逢以偶像小惑ふ事

○ 附 漢沒斯死後可羅國小入
り二部と分つ事
○ 不立人三才正三一の軍破

○ 附 猛將撒率遜女色に迷ひ身を

○ 以斯來爾人初て國を伐立る事

附 比利スチ子の剛勇小攻腦事

○ 太維德漢力亞士勇闘の事

附 太維德凱旋の事

目錄 甲

西洋夜話第二集

東京

寧靜學人著作

○ 平不立人亞刺比路小迷い奇怪小逢ひ偶像小感ふ事

附 謨設新死して後可難國小入り十二部と分つ事

再説平不立人を日格弗初て埃及國小来り住てより以素僅小二百五十年の

間あひだ小影おびた人員増ひとあふ埃及國エジプトと出立
 つ頃ときを惣勢しうせい二百萬人にひゃくまんなりなりと
 言傳ことづへけり斯かて其頭あたまある漢かん視斯しハ最
 早はや八十歳はちじゅうの老翁らうおうありとも軍強壯いんきやうさうなり
 て壯者さうしやも及およぶる勢いきさなり天性てんせい温良おんりやう恭
 謹きんも嚴格おびやうなり大變だいへんあり彼大勢あの大せいの
 平不立へいぶた人民じん成引連いひきつき埃及國エジプトと適あき出
 て直ちやう小可難國せうかなんこく小姓せうしやうて任まかせやと思おもひ立

一ありたるを抑おさ此可難國こなんこくと
 を今いまパレスチナとシム國こくの處ところに埃
 及國エジプトより彼處あそこに御ごまを亞刺比國アキバを過
 行く可べき道條みちぢありれを漸しだく亞刺比國アキバに
 ありし里さとに小不思議せうふしぎありし路みち前まへに雲
 う霞かすみあり時浪ときなみあり大おほなる圓柱えんちゆうの如ごとき物もの頭あたま
 を出だして空そらを低ひしと立たりし平不立人へいぶたじん
 が行く先さきに小動せうどうありし道みちを塞ふささる

可惡景况 一くありくす 前小行 身雲 杖
 もろく 又夜小入 きは彼柱 身雲 杖
 らで 怒の化 一す火の柱とあり 四方小
 光明を放りて 今来り 一道を照し 今迄
 はいとく 恐怖を増し 今利 而も 今の
 近邊ハ 荒地 一五穀と更あり 水一滴
 だよ ありと 一間々 あり 徒と 天道人を教
 きん 一く 一此處小 滿那と 一り 一物 一り

不思議 一人の養とあり 一り 一又
 邊 一 鶉多 一り 一きは 一の 二品を以て
 食物とあり 一僥倖小 大勢の命を繋ぎ
 一寶小 天帝の仁 慈あり 一る 一後世 西洋
 一々 神仙の食物を呼ひて 滿那と 一り
 一是 一り 初まる 一り 一也 又水ありて 叶
 一ぬ 時を 謨説 斯手を以て 岩を接 きは
 忽ち 水流き出て 諸人 渴きたる 咽を潤

去りしとありし傳ふ此一段を怪談異
説ありしも只上帝の慈愛と模設斯の
大徳より賛賞が甚小昔より説けし話
ありしと看若し不立人ハ只模設斯の
一切流ふしりて不思議の天恩を受し事
と思ひ賜へりし外の平不立人ハ天
祐よりりてアマレキトよりりし國の
人と戦ひてありし時勝たるよりりしは

操りの天幸を得たりと殆うは是と
概畧平不立人ハ頑愚しりて天恩を恐
まに真の天神を尊まじしりて動之をれ
を醜し多偶像を造りてありしは採むの
悪風あり模設斯らも其憂ひて教を施
せしも免角より疑惑を生じし信押せし
或時教師ハ迫り強て黄金より牛の像
を送りし是之を察りて信心下肝心已

が 大恩を受て 天神を祭るがごとく
向ふ 癡とて 一毛餘り有り 茲に我國
ても 諸君とて 此風あり 野鄙
俗家 動くも 是は 糶半を 信心せ
よの 山犬を 搦めのや 招福 描と 利益
りの とり 者有りて 撮の 偶像 画像
を 賣りて 利を 貪る者 有り 又 買
て 難有とて 搦む 愚人の 有り

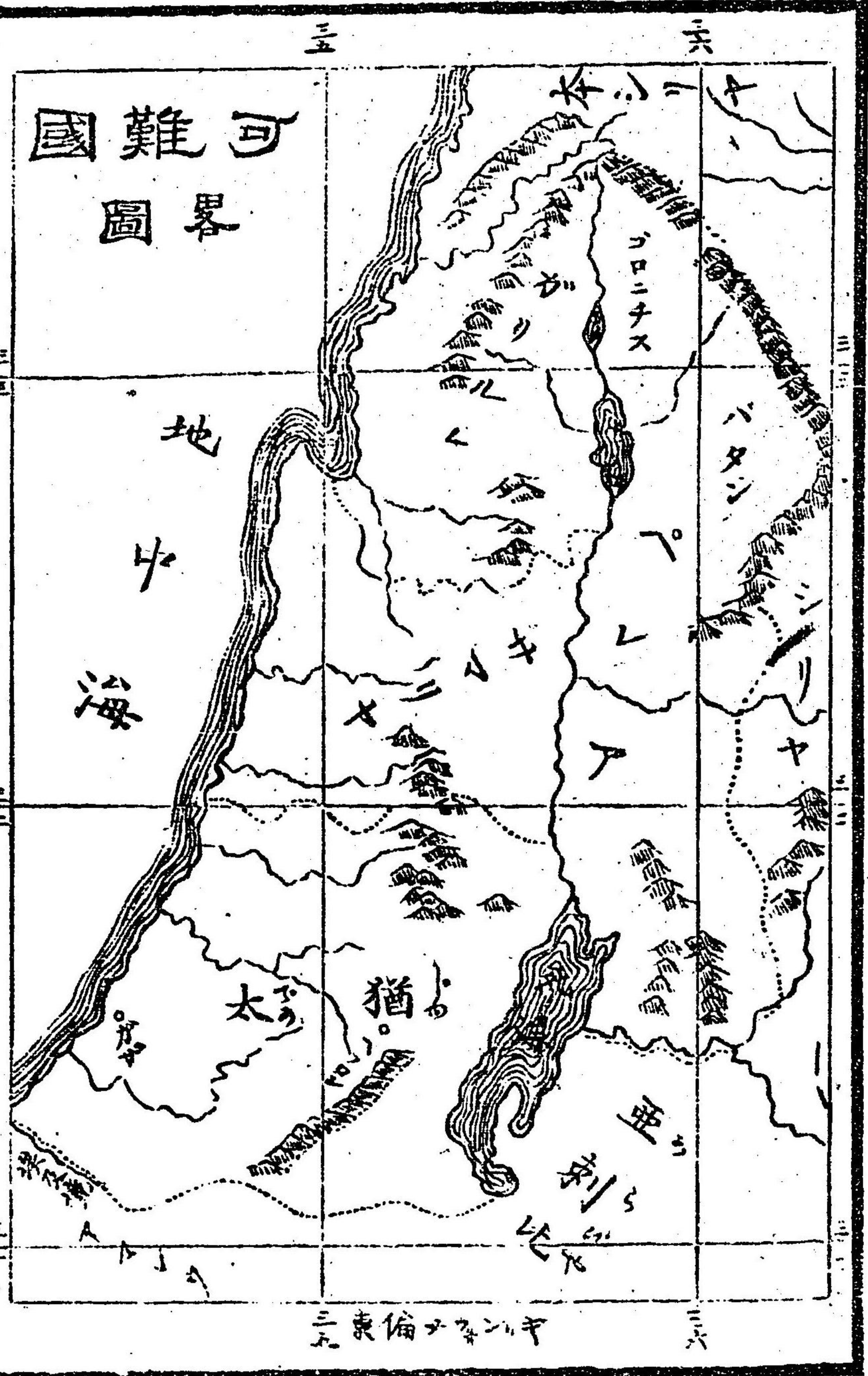
212745

素より 犬猫畜生を 生て 其 益
き 石や 金を 造り 其 賤し 多 偶
像を 搦て 何れ 利益 あり
へ 當時 文運 有り 人 智 あり
斯く 愚民の 少く あり 賣り
る 御代 あり
去程 平不立 人 暗愚 偶像
惑ひ 天恩を 惑は 措の 惡 刺 或 神

得^らる^るや屢々^々恐^ろう^うき天^{てん}災^{さい}や^り或^{ある}時^{とき}も
疫^{えき}病^{びょう}く^くや^りて野^の多^たの^の人^{ひと}の^の命^{いのち}を^を失^しひ^ひ又^{また}
或^{ある}時^{とき}も大^{だい}地^ち裂^{れつ}て大^{だい}勢^{せい}地^ちの^の下^{した}小^{せう}階^{かい}入^いり
て死^しせ^るも^もや^り此^{こゝ}等^らの^の災^{さい}禍^{わざはひ}を^を免^まれ^ぬ
漸^{しだ}く^く生^{せい}残^{ざん}あ^る者^{もの}を^を埃^あ及^{及び}國^{くに}より^{より}可^か難^{なん}國^{くに}
より^{より}直^{ちく}徑^{けい}り^りら^る二^に百^{ひゃく}五^ご十^{じゅう}里^りあり^り
道^{みち}は^は迷^まひ^ひて^て亞^あ刺^し比^ひの^の沙^さ漠^{ばく}の^の中^{ちゆう}小^{せう}四^し十^{じゅう}
年^{ねん}の^の其^{その}間^ま漂^{ひょう}ひ^ひ行^いき^きて^て居^いた^たる^るも^もは^は初^{はつ}

埃^あ及^{及び}國^{くに}を^を適^{てき}き^き出^でる^る人^{ひと}々^々多^たく^く道^{みち}は^は
果^はて^て沙^さ漠^{ばく}の^の下^{した}は^は埋^うま^りて^て其^{その}子^こ等^ら
父^{ちち}母^{はは}の^の志^{こころざし}を^を嗣^{ついで}て^て可^か難^{なん}國^{くに}より^{より}肉^{にく}ひ^ひり^り
然^{しか}し^しも^も大^{だい}徳^{とく}の^の模^も倣^{ぼう}斯^{ごと}く^く人^{ひと}衆^{しゆう}人^{ひと}は^は鬼^{おに}と^と
思^{おも}ひ^ひら^らる^る處^{ところ}は^は往^いく^くと^と能^よく^く人^{ひと}
途^{みち}中^{ちゆう}より^{より}比^ひ義^ぎ山^{さん}の^の頂^{たか}上^{うへ}より^{より}遙^{とほ}く^く可^か難^{なん}
國^{くに}を^を眺^{なが}望^{ぼう}し^して^て其^{その}多^たく^くあ^ある^る人^{ひと}々^々爰^{こゝ}に^に死^し
去^しる^る惜^{あは}れ^れしく^く甲^か斐^{はい}あ^ある^る事^{こと}あり^り今^{いま}時^{とき}

行年百二十歳ありて其後漢教新
 世を辞りて後々如米亞より者何り
 漢教新の代りて衆人を引連き漸々可
 羅國に入り人の儀所を定め十二部を
 分りて若郡長を立て諸民安堵の思を
 ありて其後以新來爾の十
 二部と号けり



○平不立人ニチエニト國の軍戎

破り事

附 猛將撒半遜女色小迷ひ身戎

認り事

平不立人可難國小住居を定めり

後は裁判人と置き以斯來爾の十二

部代總轄し平和の時をら其戎其

首領と尊め戦争の時をら其將帥

小立て指揮を受けり而も代々の裁

判人の中は英名の人材り頗る大

切を成るものり或時慈純と

人り裁判人とせり以斯來爾を管

轄り頃ニチエニト國

大軍攻來り國を撲領し七年の間國

人を壓服し無理非道な虐けきは慈純

を如何にもして國人を助せんと様々

又手を盡し心を苦しむも如何とも
論がゆきお柄神の教の妙策を得て精
兵三百人を撰て云々の合圍をぬく時
を度り手がか火燭を磁壺の内小藏
暗夜に乗じてチエニートの陣中小
悉ひ入りし敵の軍兵等も以斯來爾
人を見ゆかたり今入來んとも夢
知らぬ枕を高く寤をゆのて寐沈

もつて況あま如何も慈悲が合圍と諸共
小三百人一時に磁壺を破り一同小
嘯と喇叭を吹たりは寐取の木の
チエニート人の物驚かす驚き立ち眼
も覺て下で肉章振振と懐々と立駭
ぐ肉を以斯來爾人を當て幸ひ切て
廻りけし高聲し神の御劔は慈悲の
劔と呼ぶか驚きしチエニート人も驚

おどろき味方を敵と思違ひ滅體無性
小同士討し以斯来爾人小殺
若き少くれと味方同士小討きて死
るもの多し大勢の軍兵等殊らん覺
くきは以斯来爾人小僅三百人小大
敵を盡ふし國人塗炭の苦を免きし
也り路らしき天幸なり
其後以斯来爾の裁判人小最も高名

剛へし其名を撒半遜とて天下無雙
の強かり備あの人の力強きと頗る
奇妙あるとて髪の毛の長短小し
強弱同し人髪の毛長くと襟の無き
廓の巻けらるるは百人がも餘り何
りうれと短く切りも尋常の
人の力小過きんとりて人の時代
小ピリスチ子とりて國より軍を起し

來りて以斯來爾國をとり國人を痛く
腦を以て敵に向ひ屢々シリスチ子人を
討取り或時一軍小敵千人を討取た
るに河り而も撒羊遜お持ちする武
とて之驢馬の腮骨のそと其外亦小
一ツガリ利害ありりとり又或時
撒羊遜賀産とりし街より入り小シリ

利子人等街門を鎖て撒羊遜を討取ん
と身一小撒羊遜と其門を曳扱て尙小
荷ひ遠き山の上より持行りし
斯くして撒羊遜とシリスチ子人を惡
て力戦しつ實小思案の外も
に怒りしとある敵國小丁理羅とて美艷
女有りしと云ふ撒羊遜と云ふ小慈慕い
と云ふは女と情有りしと云ふ所と彼強敵

を減らん。馬の同。情の撒半遊を慮
る。徳より。素より。心を焦す。
撒半遊得手の。忱の。半て。何時小剛深。
う。あふ。其肉の。女を。言葉。を。巧。少。撒半
遊。の。他人。小勝。き。強。力。の。原由。を。問。ひ
れ。ど。初。の。程。を。撒半遊。も。虚言。の。ひ
居。ま。り。の。素。より。親。の。中。の。月。日
う。ひ。ま。の。遊。々。と。丁。理。羅。の。巧。言。の。蕩。の。

これ終。は。決。口。て。真。と。う。り。云。々。と
強。力。の。奇。異。の。原由。を。語。り。ま。さ。は。女
を。巴。の。本。國。の。ロ。リ。ヌ。チ。子。の。遊。進。
撒半遊。の。保。念。の。熱。睡。の。法。を。思。ひ
き。き。彼。長。の。髪。毛。を。切。拂。ひ。ロ。リ。ヌ。チ
子。人。を。圍。小。誘。ひ。て。引。渡。す。の。撒半遊。の
ま。は。霧。の。人。眼。を。覺。し。見。ま。は。何。の
せん。手。足。を。既。に。青。緞。の。鎖。の。繫。が。れ。控。

西洋書 二集 卷之十一 反

方々々々無念ありて毛ヤ〜と囚虜と
 あり牛馬の如く使役せられて居たり
 甲斐て歲月経るうら〜々撒半遊の
 髪毛も漸々長く延び隠るゝ次程小か
 毛増すも今を力業〜と勞苦以て思
 ふまに〜々も髪を放す〜々長く延び
 て再々世界第一の強力を〜々なり
 〜〜の強力を〜々なり
 〜〜の強力を〜々なり

陀金〜々國中朝野〜々信心〜々偶
 儼りり其祭日〜々老弱男女〜々
 其堂々参詣〜々貴賤羣集〜々海山の
 味を集り酒宴を催して終日娛樂を盡
 事あり〜々今日も陀金の祭〜々例
 の〜々諸人群集して宴會を始め酒酣
 人々其小入り〜々頃々の囚獄あり
 撒半遊を引出〜々力業を見物ヤ〜々

十三
 石川氏雜著

思へども如何ある後枕をさしんも計
うしよまきは眼を潰しけり出し一具
せんものゝ陀金の堂へ来りし撒
半遊と警の顔をのめくゝ鳴しつゝ
出て陀金堂へ来りし斯て撒半遊
と咫尺とさしり如盲目とさしり
とさしり無念の胸を押搥て法人の好小
様々の試力とさしりさしりかきもや
髪毛

延て骨節高き肩よ垂き再び無雙の強
加とけりうきん諸人眼を驚らし只忙
然るが居たりする夫し撒半遊の中
堂の圓柱よ憑り暫く休息を乞ひする
小ベリスチ子人よ此時機捕を土間
隙より群集して彼試力を見物して大
小具よ入り力よ可恐るれど盲目あり
は最早さしり小枕ありともさしり

互小悦び居りりり新の所小撒
年遜と二本の圓柱を両手小抱へ彼大
りふ陀金堂をちりくと撼しき地
震の動出さる撒年遜の浅一出生
懸命と大力を出さる動さる雷の
響しる尾流り動と堂倒き散萬の
リスチ子人壓潰さる果て小り撒
年遜も同く堂の下小排倒され敵國

の貴人高位の人の死散小理りれり勇
しき死を遂ゆるを實の目覺るさる
りりり

○以新来用人初て國王を主つる事
附ビリスチ子の別勇小攻略

事

漢改新埃及國より平不立人民を引出

一々の事以来凡四百載の其間歴代裁
判人出て以斯來爾を管轄一々の國
人之の政法を喜ひ一々國王を立て其
管轄と受ん一々望みのとき代時の裁判
人之願ひ出るる一々の時以斯來爾と管
轄一々裁判人其名を薩密宇兒と云
老翁あり一々の性得伶俐人なり一々の
年見聞小知識と博く一々の之より天

然の靈智あり一々の又なり一々の國民國王
を主一人と願ひ一々の時薩密宇兒衆人小
偷一々の云々一々の國王あり一々の諸民の
孝より夫も國王を善惡小拍り一々の何事
一々のと我意を國中一々の行ふ權柄あり一々の者
あり一々の古昔より國王惡虐無道を行ふ
一々の常の弊あり一々の心無き一々の若くは
一々の無道の君の例を上げ一々の巨細小説

極一々まじりて國人のまじり可きまじり是
紀のく天神の伺ひのく以斯來爾國
人の考の玉を立つ可一の神慮のふ
一あまは蒼児としくの壯者を國王
と定めまじり此人容貌美衆の中天窓
の長く國中無類あり薩密宇児を此
蒼児としく人の長と天窓の油を塗る
て飾る之を以斯來爾國王の衆

人よふ一々まじり國人大小悦み人里夫
一薩密宇児を法體とあり無二の誠
忠を盡し國王蒼児の行状を拍る事を
何事よ一々心を附て忠告しまじり
云賣の大徳の老僧と禪僧一又國王蒼
児も善密宇児の諫言を聞き行跡正
しく眞明の玉ありまじり國民のく
懐服し一々暫く國中平穩まじり

とふん
斯く久しく星霜を經る國小國王蒼兎
ら已む權威の行ゆるは隨ひ次第小
我儘増長し今を薩密宇兒の諫議と
閑密と天理と悖るは情状をうま
る天將忽ち勃ひ來りて屢々鄰國
軍を起し以斯來爾國を攻ひる者
り年々戦争絶間ありりしは
或

時
ポリスチ子陣中はカス
の人手獲力五士と別が無獲の長
人なり身長一丈行りて又一丈二尺
なりと身は天窓より足如小
聖るまが熟細の甲冑を統ひ巨太の長
槍を持らるり此槍の鋒の重三十磅
り重るるを斯く別力の長人毎日
西
羊
皮
書
二
集
六
石
川
氏
藏
版

不チ子の陣より出て以斯来爾人小戦
 を挑と大聲もて罵て云る中より以斯来
 爾の陣小推らり予ら力小敵もる者
 何あは疾く出よ一人一人の力を戦
 せんといひて以斯来爾の陣中
 へは之小敵もる野か何とゆき一人
 を避ら出らまらん只大勢出て遠小馳
 走と怒もく逃廻る計あまは恰も群居
 戦と怒もく逃廻る計あまは恰も群居

羊の獅小達らる如くあり

○太維徳護力亞士、勇闘の事

附 太維徳凱旋の事

爰小以斯来爾の羊牧と太維徳とい

へる壯者りり以斯来爾の陣小来りて

戦小出んといひ折柄敵陣より彼

剛力ある護力亞士出て例の如く呼り

罵る其聲も雷の如く小聲も渡りて然

も恐し計あり太維徳の聲以聞て
思ひけるや予き少し雖も既
獅態ふとの如き猛獣も打取
り素より力の及ばぬや
ど心正し者小神の助ありん
も必
あきを被剛力あら長人と打取らんも
難事よ
強敵が需よ應しと相手よあり

んと國王蒼兎小暇と乞ひし蒼兎
其志小感して着料の禮と貸與らん
云つきと太維徳と固く辞し禮以着
せん羊牧の姿の終して帯し劍も綿也
ら其儘戦場へと向ひける
斯く兩勇の戦場小出たり姿と見
以斯来爾の方よりはまた年少き太維徳
う片手小杖以持ら又片手は投石紐

西洋校話 二集 廿一 石川氏藏板



石川氏藏板

と持ち夾袋の中へ滑石と五入きた
り又ピリスチ子の方へは彼長護力
亞士不黄銅の鎧成輝くは鉄棒の大槍
を振り廻し護のまじく小嬬々と焼せし大
音あぐら其時を恰も空に雷の轟く
如くあり然まは護力亞士と太維徳と
蔑み視て思ふやう猾しき小奴あら
那予此大槍と取上る間とも候きん眼

小物見せんと立上り彼大音を呼と
るやう来き汝う肉と割て鳥の餌させ
んと云きと太維徳小男おまると出の悪
口小辱しめられし更お恐り色と
あく護力亞士小向て云らるやう予今
汝の首を取て其大なる死骸を野へ捨
て獸の腹を肥さんとしらるるを護
力亞士怒ていざ一討に太維徳を打殺

西洋奇話 二巻 廿二 富川氏蔵

身と國と進と出と
 進と出と護力
 走りに出ると波
 出ると石組
 程と近間
 風切と飛りて
 力匪士の額
 填入は流石
 身と國と進と出と
 護力と出と
 波と袋と
 石組と小石
 近間と寄と
 飛りてと規
 額の中と
 流石とたけ
 護力と士
 何と

は以て野中
 られど黄銅の
 渡りぬ太維徳
 走り寄り腰
 が大首を打落
 切ると別勇
 且と驚と且恐
 斯來南人
 今と今と
 遁とトと
 勇と多と
 野中と動と
 の音とえと
 体を見て早
 鋼を引抜
 はピリスチ
 子人
 體を見
 逃去を以
 勇多と

造り多し教多の人を討つる里夫よ
 太雅徳を被獲力亞士お怒るしき大
 首の髻を取つて引撥ぶ都小歸り來り
 是は都は残り一婦女子を太雅徳が犬
 吠を聞傳へ殺せんと出見んとて大
 太雅徳が周小言り集ひ凱歌を謡ひ舞
 をしひ賛ぐる人をおうりては
 是より太雅徳を衆人の心を解きぬ

と國王蒼兎の怒と受て様々の憂苦
 と見て後遂小立ちく國王とあり
 賢小嗣君と得て永く栄々るは弟
 三集小解りく

西洋夜活茶二集 終

白 井 之 氏 一 冊 廿 二 日 刊 行

西洋夜話 二集 三集

明治六年一月刻成

養愚堂藏版



第三集續行出版

室町三丁目 中外堂

東京書肆

京橋金六町

翰林堂

共發

明治六年一月新刻

再版英學入門 完

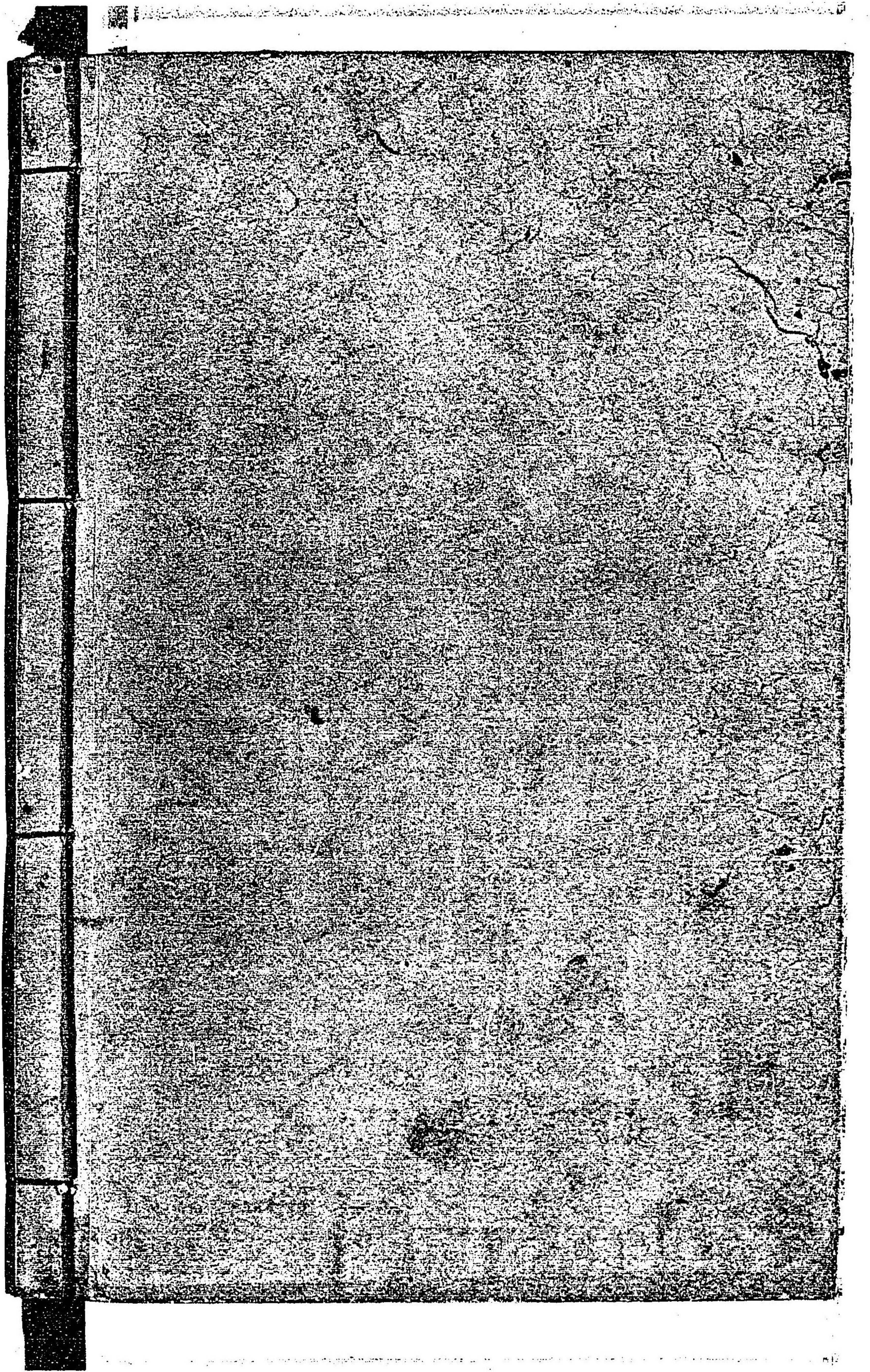
西洋夜話 第二集

西洋算法 第三編

京橋金六町

東京書肆 翰林堂

福田屋幸七發行



230.1

I623A

W